

第5学年 国語科学習指導案

日時 平成26年10月10日(金) 6校時
場所 5年3組 教室
児童 5年3組 男子14名 女子15名 計29名
指導者 佐々木 昭 仁

- 1 単元名 説明のしかたについて考えよう
学習材名 「天気を予想する」(光村図書 5年)
補助学習材 「岩手日報新聞」日報ジュニアウィークリー, 社会科教科書・資料集 他

2 単元について

(1)児童について

児童は、第4学年単元「アップとルーズで伝える」の学習において写真と文章を対応させて読み、説明の工夫について考えることを学習してきた。また、第4学年単元「ウナギのなぞを追って」の学習においては写真、図表、地図などを文章と対応させながら、段落相互のつながりに気をつけて読むことを学習してきた。さらに、第5学年「見立てる」「生き物は円柱形」においては、文章の書かれ方や文章構成に着目して要旨をとらえ、それについて自分の考えを書きまとめることを学習してきた。

29名中20名程度の児童は、事実と考えを読み分けること、写真や図表、地図などと文章を対応させて読むことはできている。しかし、段落相互のつながりを考えることや要旨をとらえることについては個人差がみられる。これは、文章に書かれている情報が多くなり、書かれている内容を断片的にしか読んでいないことが考えられる。また、「筆者が文章で取り上げている内容の中心となる事柄」や「筆者の考えの中心となる事柄」である「要旨」を、詳しく説明している「事例」と取り違えていることが考えられる。

(2)学習材について

本学習材は10段落からなり、科学技術の進歩や国際協力によって天気予報の精度が上がっていること(第1～3段落)、けれども百パーセント的中を予想することは難しいこと(第4～6段落)、それら予想の難しい突発的・局地的な天気の変化をある程度予想する手立てがあること(第7～9段落)、したがって自分でも天気に関する知識を持って気象の変化を感じる事が大切だという筆者の考え(第10段落)という4つのまとまりから構成されている。

既習の1つの大きな問いについて説明を進めていく構成と違って、1つの問いが立てられ、それに答えるといった展開が3度繰り返されるという構成で書かれている。読み手の思考の流れを方向づけながら、3段落程度という短い文章で答えまで導いているので、読み手は内容をとらえやすいと考える。また、表や写真、グラフといった文章以外の資料が多用されているので、本文で述べている内容の理解を助けてくれるという点も特徴と言える。

(3)指導にあたって

本単元で身に付けたい力は、①文章構成の工夫をとらえる力②表・写真・図・グラフなどの資料を用いた効果を考える力の2つである。そのために「図表などの活用効果、論の進め方、筆者の意図や思考を想定しながら説明文を読む」という言語活動を設定した。

第一次では、天気や天気予報について想起しながら文章を読む構えをつくとともに、説明的文章を読んで要旨をとらえる1学期の学習を思い出させ、要旨をとらえるために書かれている内容と説明の工夫に着目して読んでいくように方向づけたい。

第二次では、まず筆者が伝えたいことをとらえさせる。筆者が自分の考えにつなげる工夫の一つとして、3つの問いと答えを用いながら論を進めていく説明のしかたをとらえさせたい。さらに、図表・写真・グラフなど文章以外の資料を多用している効果を考えさせていきたい。

第三次では、第二次で学習したことを活かし「ジャンプの課題」として、新聞や社会科資料集などの補助学習材を使用して、文章と資料を対応させて読み、資料の効果を考えさせる。さらに、「ジャンプの課題」として、次時の単元への橋渡しとするために、説明が不十分な文章をリライトする活動を行う。

第三次の最後に、本単元を通して学んだことを振り返り、次時の学習へとつなげていきたい。

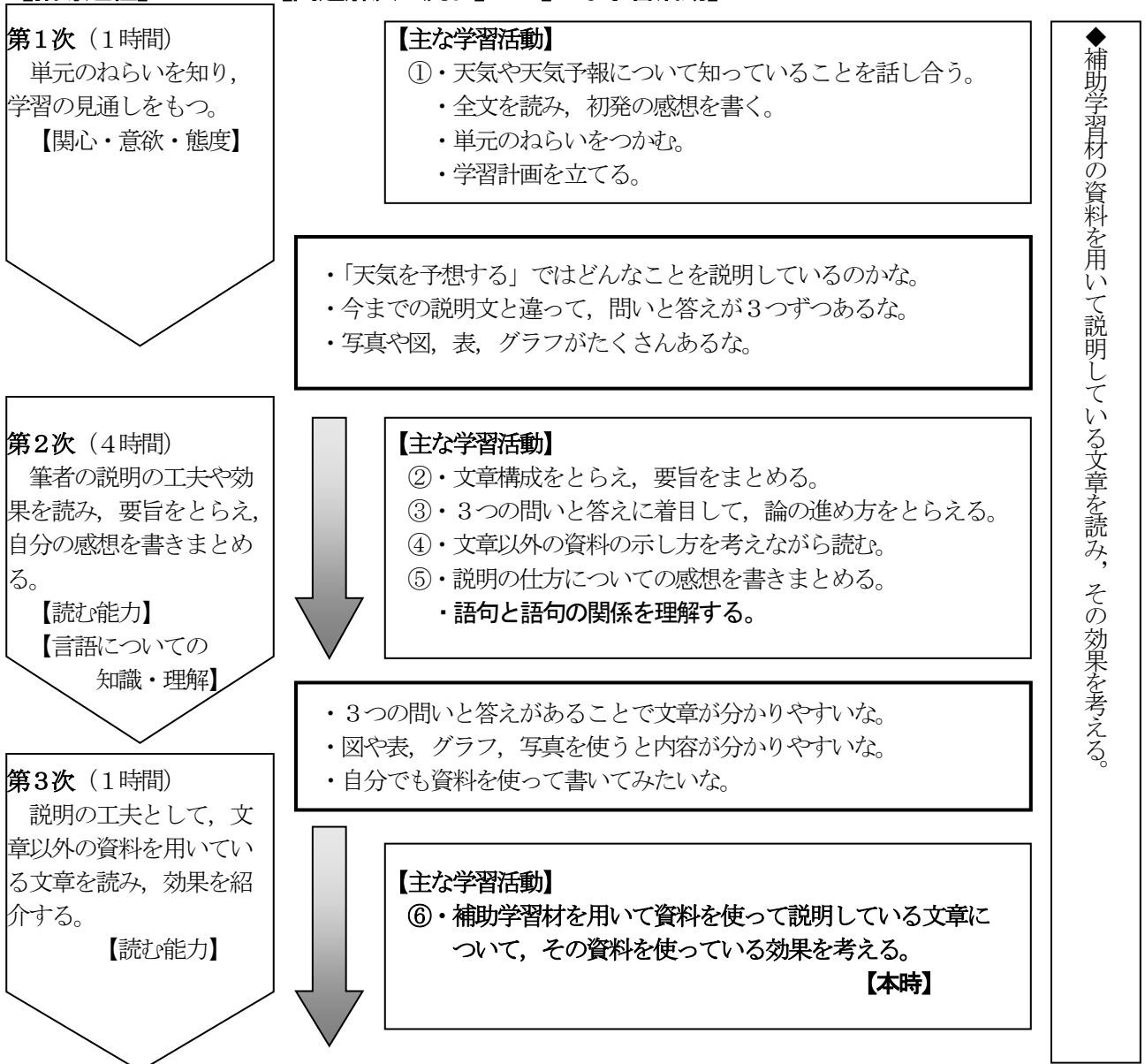
3 単元の指導目標と評価規準

観 点	目 標	評 価 規 準
国語への 関心・意欲・態度	・目的に応じ、内容や要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら本や文章を読もうとしている。	・自分の課題を解決したいという願いをもち、その問題解決のために複数の本や文章を比べて読み、情報を多面的に収集しようとしている。
読む能力	・目的に応じて、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。(1)ウ	・意見を述べた文章や解説の文章などに対する自分の考えをもつために、必要な内容を押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係をおさえたりして読んでいる。
言語についての 知識・理解・技能	・文章の中での語句と語句との関係を理解している。(1)イ(オ)	・文章を特徴付ける語句に気付き、語句と語句の関係を理解して読んでいる。

4 単元の「学びのプロセス」の構想 (全6時間)

【指導過程】

【問題解決の流れ】と【主な学習活動】



5 本時の指導（6／6）

(1) 目標

- 文章と資料を対応させながら、資料を使っている効果を考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容	教師の支援と評価
つかむ 5分	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 文章と資料を対応させて、資料を使っている効果を考えよう。 </div>		<p>★手立て2（対話）手立て3（「課題設定」と「評価活動」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物を使いながら、学習してきたことを確認させる。 <p>★今まで学習してきたことのまとめであることに気付かせる。（手立て3）</p>
学び合う ふかめる 35分	<p>3 学習課題を解決する。</p> <p>(1) 課題を解決する。 ◆グループ→全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章と資料を対応させる。 ・ 資料があるときと無いときではどのように違うだろうか。 ・ 資料があることでどんなことが分かるのか。 <p>(2) ジャンプの課題に挑戦する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 文章をリライトしてみよう。 </div> <p>◆個人→グループ→全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章と資料を対応させて、不足している部分をリライトする。 <p>4 資料を使っている効果についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 資料集や新聞などでも多くの資料を使って、説得力や真実性、書き手の根拠などを持たせている。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章との対応 ・ 図表やグラフ、写真の効果 <ul style="list-style-type: none"> ・ リライト 	<p>★資料との対話を通して、文章と資料がどのような関係になっているかを考えさせる。（手立て2）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈評価〉 文章と資料を対応させながら、資料を使っている効果について考えることができる。 【読むこと】 〈評価方法〉 ノート・観察</p> </div>
ひろげる 5分	<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を使っている効果について学んだことを振り返る。 ・ 今後の学習にどのように活用していくのかを考える。 <p>6 次時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで学習してきたこと活用し、自分たちで資料を使って文章を書いていくことを知る。 		<p>★これまで学習してきた筆者の論の進め方や資料の効果について振り返り、今後の学習に活用していこうとする意欲につなげる。</p>

(3) 板書

⊕			⊖
資料集や新聞などでも多くの資料を使って、説得力や真実性、書き手の根拠などを持たせている。			文章と資料を対応させて、資料を使っている効果を考えよう。
			天気を予想する 武田 康男

(4) 座席表

黒 板

